
平成22年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成22年3月2日

質問者（質問順）

- | | | | | |
|---|----|----|----|-------|
| 1 | 坂井 | 太 | 委員 | （自民党） |
| 2 | 酒井 | 誠 | 委員 | （自民党） |
| 3 | 川口 | 珠江 | 委員 | （民主党） |
| 4 | 望月 | 康弘 | 委員 | （公明党） |
| 5 | 今野 | 典人 | 委員 | （民ヨコ） |
| 6 | 太田 | 正孝 | 委員 | （無所ク） |
| 7 | 白井 | 正子 | 委員 | （共産党） |

水道局

局 別 審 査

1 坂 井 太 委員（自民党）

1 水道事業の経営状況

- (1) 水道事業の経営の現況はどうか。
- (2) 22年度の料金収入予算はどのように見込んだのか。
- (3) 水道料金収入が低迷している原因は何か。さらに今後の見通しはどうか。
- (4) これまでの経営効率化の取組はどのようなものか。
- (5) 22年度予算編成にあたって特に重点をおいた点を伺いたい。

2 老朽管の更新と事業費縮減の工夫

- (1) 水道管路の更新計画策定にあたって優先順位の考え方はどうか。
- (2) 老朽管を更新することによりどのような効果があるのか。
- (3) 過去の漏水件数の推移はどのようになっているのか。
- (4) 他企業と一緒に工事をするなど工事費縮減の努力をしているのか。
- (5) 材料の直費購入策について工事事業者等への影響はどうか。
- (6) 材料の直費購入策により具体的にどれだけの工事費を縮減できたのか。

3 水道局資産の有効活用

- (1) 西谷浄水場内体育施設の貸付期間、貸付価格について伺いたい。
- (2) 事業予定者はここにどのような施設を整備していく計画なのか。
- (3) 利用にあたって、配水池内の水の安全確保のために、どのような制限を設けているのか。
- (4) 今後、事業予定者は、この西谷浄水場内の体育施設を使ってどのような活動をしていこうとしているのか。

4 安全でおいしい水の供給に向けた取組

- (1) おいしい水とはどのような水なのか。

- (2) 横浜の水道水は、おいしい水の要件からするとどの程度なのか。
- (3) 安全でおいしい水を供給するために、どのようなことを行っているのか。
- (4) カルキ臭解消のために、これまでどのような対策を実施しているのか。
- (5) カルキ臭の低減化は22年度どこまで進むのか。長期的な目標はどうなっているのか。

1 災害対策

- (1) 応急給水拠点の整備状況はどうなっているか。
- (2) 応急給水は地域との連携が重要だと思うが、どのような取組を行っているか。
- (3) 他都市からの応援について、どのような体制をとっているか。
- (4) 災害医療拠点病院等への管路の耐震化を進めているとのことだが、どのような事業か。
- (5) 災害医療拠点病院、救急告示医療機関とは、どのような施設か。
- (6) 現在、市内でこの事業の対象としている病院等の施設は、どのくらいにあるのか。
- (7) これまでの事業の進捗状況、また、今後の整備計画はどうなっているのか。
- (8) 平成21年度の事業量が多くなっている理由は何か。

2 子供たちが水道水を飲む文化を育む事業

- (1) この事業の目的は何か。
- (2) この事業は、どのような学校を対象にしているのか。また、水道局と教育委員会の役割分担はどうなっているのか。
- (3) 市内の小・中学校等のうち、屋内水飲み場を直結給水に切替えたのは何校あるのか。
- (4) 子供たちを対象にしたPRはどのようなことをやっているのか。
- (5) 屋内水飲み場に直結給水方式を導入した後、子供たちの評判はどうか。
- (6) 21年度の実施校数はどのくらいか。また、22年度は何校を予定しているのか。
- (7) 実施予定校数を縮小する理由は何か。
- (8) 今後の取組はどうか。

3 「はまっ子どうし The Water」について

- (1) 「はまっ子どうし The Water」の販売目的は何か。
- (2) 「はまっ子どうし」のラベルデザインをリニューアルした理由は何か。
- (3) 「はまっ子どうし The Water」のラベルデザインのリニューアルなどにあたって、どのように進めたのか。
- (4) リニューアルされたデザインの考え方はどのようなものか。
- (5) 「はまっ子どうし The Water」の販売拡大にあたって、22年度は、どのように取り組んでいくのか。

4 国際貢献の推進

- (1) ベトナム水道事業体等と横浜市水道局との4者覚書とは、どのような内容か。
- (2) どのような経緯でベトナム3機関と覚書を締結したのか。
- (3) 水道局が独自にベトナム3機関と覚書を締結することの意義は何か。
- (4) この覚書に基づく相互協力とは、具体的にどのような内容か。
- (5) 覚書に基づく協力活動について、今後はどのように取り組んでいくのか。
また、国際貢献全般についてはどのような考え方で進めていくのか。

1 財政状況

- (1) 料金改定がされた平成13年度以降の年間給水戸数及び年間使用水量の動向はどのようなものか。
- (2) 平成13年度以降の用途別で見た一戸1か月当たりの使用水量の動向はどうか。
- (3) 経営にかかる基礎的な数値に改善の見込みはあるのか。
- (4) 今後の事業運営に係る資金確保をどのように考えているのか。
- (5) 今後の水道事業の経営の方向性についてどのように考えているのか。

2 新会社設立による新たなビジネスの展開

- (1) 施設整備維持管理業務とはどのようなものを想定しているのか。また、その収入見込はどうなっているのか。
- (2) 現在働いている鶴ヶ峰浄水事務所に在籍する職員の行き先はどうなるのか。
- (3) 鶴ヶ峰浄水事務所における委託に伴う削減効果はどのようなものか。
- (4) 川井浄水場の削減効果はどうか。
- (5) 研修事業はどのような方を対象に、どのような内容を想定しているのか。
- (6) 研修ニーズはどのくらいあって、それによる収入見込はどうか。
- (7) 国際関連事業の内容はどのようなことを想定しているのか。
- (8) 現在はどのような仕組みでJICA等の事業を受けているのか。
- (9) 新会社と水道局との事業仕分けの考え方はどうか。
- (10) 国際関連事業の収入について、どのように見込んでいるのか。
- (11) 4年目以降の新ビジネスに対する需要見通しはどうか。
- (12) 新会社の組織規模についてはどのように考えているのか。また、人材の確保についてはどうか。
- (13) 新会社へのチェック体制はどういったものになるのか。
- (14) 新会社設立に際して、水道事業の経営者として局長の所感はどうか。

3 人材の育成と技術の継承

- (1) 18年度に策定した「横浜水道10か年プラン」における職員定数の削減目標とその進捗状況はどうか。また、どのような手法で削減を行っているのか。
- (2) 定数削減を進めるにあたり、事業運営に支障は生じないのか。
- (3) 技能職員から技術職員への転職方法とはどのようなものか。
- (4) 企業内転職制度の実施により、どのような効果があったのか。
- (5) 技術力向上のために、どのような取組を行っていくのか。

4 水道施設の整備促進

- (1) 水道施設の耐震化計画とその進捗状況はどうか。
 - (2) 施設整備に要する資金確保の状況はどうか。また、企業債の発行状況はどうか。
 - (3) 事業経営における企業債残高は、他都市と比較してどの程度か。
 - (4) 川井浄水場の再整備でPFI手法を導入した狙いと効果は何か。
 - (5) 川井浄水場PFI事業の進捗状況はどうか。
 - (6) 川井浄水場PFI事業を成功させるために必要なことは何か。
 - (7) 今後の資金確保と施設整備についてどのように考えるのか。
- (要望) 今後も水道局が販売を続けることになっているペットボトル販売事業について、製造や流通プロセスを再検討すること、その結果としての価格の妥当性をよく検討すること、環境に配慮した商品とすること等、本来のPR目的にかなう商品を開発されるよう要望します。

1 財政状況

- (1) 過去5年間の水道料金収入はどのように推移しているのか。
- (2) 水道局は、新たな中期経営計画を策定しており、22年度はその折り返し年となるが、料金収入の状況は計画と比較しどのような状況なのか。
- (3) 中期経営計画と比較し、料金収入が落ち込んでいるようだが、どのように考えているのか。
- (4) 中期経営計画の重点事業にもなっている水道施設の更新や耐震化の予算は、どのような考え方で編成したのか。
- (5) 22年度予算において、財政の健全性を維持する考え方はどのように反映されているのか。

2 新たなビジネス

- (1) 今回、新会社を作るにあたり、水道経営にどのような変化があったのか。また、設立の理由は何か。
- (2) 株式会社とした理由は何か。また、出資比率・出資額はどのくらいか。
- (3) この会社が提供しようとしている業務を必要としている事業体は、どの程度あるのか。また、同業務のライバル会社はいるのか。
- (4) 今後、どのように事業を展開しようと計画しているのか。また、設立から5年間の収益をどの程度見込んでいるのか。
- (5) 業務の効率化・組織のスリム化の必要性の観点も踏まえ、この会社をどのように活用していくのか。局長の考えはどうか。

3 老朽管の更新

- (1) これまでの老朽管更新の実績はどうか。また、今後の更新計画はどのようなになっているのか。
- (2) 更新を進めるにあたり、今後の課題はあるのか。また、それにどう対応して

いくのか。

(3) 更新工事により、撤去される水道管はどのくらい発生するのか。

(4) 水道管のリサイクルシステムの研究開発を行っているが、現在までの調査内容はどうか。

(5) 今後は、どのように取り組んでいくのか。

4 安全でおいしい水を供給するための施策

(1) 貯水槽水道の巡回点検

ア 市内の受水槽の設置状況はどうか。

イ 貯水槽水道巡回点検のこれまでの実施状況と今後の予定はどうなっているのか。

ウ 貯水槽水道の巡回点検において、健康福祉局とどのような連携を図っているのか。

エ 22年度で事業が一巡するが、23年度以降の計画はどうなっているのか。

(2) 4階直結直圧式給水

ア 4階直結直圧式給水のこれまでの実績はどうか。

イ さらなる4階直結直圧式給水の促進のために、どのような広報を行っているのか。

(3) おいしい水を作るための調査研究

ア 22年度に行う研究テーマとして、微粉炭など3つのテーマがあるが、微粉炭についての研究とはどのようなものか。

イ 画像認識による自動計測技術の開発はどのようなものか。

ウ 相模湖のかび臭発生対策調査の内容はどのようなものか。また、今後どのように進めていくのか。

エ このようなおいしい水に関する調査研究を進めることで、どのような効果を考えているのか。

5 環境にやさしい水道

(1) 自然流下系への切替

ア 環境にやさしい自然流下系を優先しているようだが、具体的な取組として、どのようなことを行っているのか。

イ 浄水場から各戸までの過程においても自然流下系を優先しているとのことだが、最近の事例にはどのようなものがあるのか。

ウ 今後、さらに、自然流下系を拡大していくことは可能なのか。

(2) 再生可能エネルギーの導入

ア 再生可能エネルギーに関する水道局の取組にはどのようなものがあるのか。

イ 22年度に予定している青山水源事務所の小水力発電設備はどのくらいの規模か。また、発電した電力はどのような用途で利用するのか。

ウ これら再生可能エネルギーの活用に水道局として取り組む意義についてどう考えているのか。

5 今野典人委員（民ヨコ）

1 40万人口座振替・クレジットカード促進キャンペーン

- (1) キャンペーンで、どのくらいの予算をかけてどのような具体的な取組を行うのか。
- (2) キャンペーンによる効果をどの程度見込んでいるのか。
- (3) 他都市において口座振替などの切り替えに優遇策を講じている例はあるか。
- (4) お客様にとってメリットを感じられるような具体的な取組について検討すべきと思うがどうか。

2 資産活用による財源確保

- (1) 資産活用についてこれまでどのような取組を行ってきたのか。
- (2) 売却及び貸付ごとの過去3年間の実績と21年度及び22年度予算はどのようなになっているのか。
- (3) 今後あらたにどのような活用を行っていくのか。また、どのような具体的な事例があるのか。

3 新たなビジネスの展開

- (1) 新会社の事業のうち、施設の整備及び維持管理ではどのようなものを行おうと考えているのか。
- (2) 西谷浄水場など今後も基幹となる浄水場について新会社で受託することはできないか。
- (3) 新会社の事業の概要には水道管の漏水調査や緊急修繕対応なども含まれているようだがどの程度の範囲で行うのか。
- (4) 市内の中小の民間企業への影響や関係についてはどのように考えているのか。

4 工業用水道事業の経営

- (1) 工業用水道事業の現在の状況と課題は何か。

- (2) 積極的に工業用水道の利用の拡大を図っていくべきと考えるがどうか。
- (3) 経費の節減や効率化についてどのように取り組んでいるのか。
- (4) 工業用水においても水需要や料金収入が減少傾向にある中では、抜本的な見直しも必要と思うがどうか。

5 水需要に応じた施設整備と神奈川県内広域水道企業団の受水

- (1) 現在の給水能力はいくつか。また、将来の水需要をどのように見込んでいるのか。
- (2) 給水能力と水需要予測に違いがあるが、施設整備はどちらを基に進めているのか。
- (3) 施設整備について具体的にどのような考え方で取り組んでいくのか。
- (4) 企業団受水費の22年度予算額と支出に占める割合はどのようになっているのか。
- (5) 企業団受水の料金体系はどのようになっているのか。
- (6) 企業団に対して、基本水量の減量を求めることはできないか。
- (7) 現在の水需要の状況を踏まえて、企業団にも一層の経営努力を求めるとともに、受水費の減少につながる料金値下げを求めるべきだと思うがどうか。
- (8) 現在の料金収入から考えると、料金改定をせざるを得ない状況ではないかと思うが、局長の考えを伺いたい。

6 太田正孝委員（無所ク）

1 株式会社の設立

- (1) 新会社の仕事の内容と契約方法について伺いたい。
- (2) 22年度以降は企業団からの受水で全体を賄っていくため、鶴ヶ峰浄水場の浄水機能は停止するのではなかったのか。
- (3) 鶴ヶ峰浄水場等の運転管理業務を新会社と随意契約できる理由は何か。

7 白井正子委員（共産党）

1 水道料金滞納世帯の給水停止

- (1) 横浜市全体で未納停水件数が増えているが、その理由をどう考えているのか。
- (2) 行政区によっては未納停水の執行件数が減っているところもあるが、20年度から委託した、旭・瀬谷及び磯子・金沢地域サービスセンターでは、未納停水件数が増えている。その理由をどう考えているのか。
- (3) 仕様書の中で目標収納率を別途協議することとなっているが、どのような協議をしているのか。
- (4) 20年度の報奨金はいくら支払ったのか。
- (5) 報奨金でインセンティブをつけ、違約金で縛るといような料金整理業務の民間委託は行うべきではないと思うが、局長の認識を伺いたい。